

文字組：行末約物半角、オブティカル（トラッキングー 5）

ビリー・ホリデイのディスクで個人的な一押しは47年のカーネギーホールのライブです。

ピアノがああポビー・タッカーであるというのも素晴らしいですし、ビリーのコンディションが（例外的に）良く、聴衆との暖かいコミュニケーションが伝わってくる録音（音も年代を考えるとかなり良い）です。

以前、ヴァーブの10枚組の全集に収録されていましたが初出盤がどういふものかも知りませんし、再発されたかどうか分かりません。

ビリー・ホリデイ関係の文献をあさって調べたところ、1947年はピアニスト、ポビー・タッカーとの共演はたったひとつ。カーネギーホールのJATPコンサートに飛び入りの出演したという記述がありました。いやがるビリーを無理矢理タクシーに押し込めて、会場に向かったとか。たった4曲だけですが、本当に名演。信頼するポビー・タッカーに身も心も委ねているかのような、リラックスした優しさに満ちています。ラストの「アイ・カバー・ザ・ウォーターフロント」のひたむき！

2000.12.05

MJの記事から

オーディオ雑誌を購入することが、最近では少なく、たいていは近所の公共の図書館で1か月遅れを借りて読んでいます。

そんな中で12月号のMJ無線と実験は、久しぶりに読みごたえのある制作記事が載っていました。

ひとつはDCアンプで有名な金田明彦氏の300B SEPPアンプで、OTLの手法ともいえるSEPP回路を管球の300Bで構成し、出力トランスはDCを流さない、単なるマッチングトランス。整流管のあとのCが1000 μ もあつたりして、古い管球マニアは顔をしかめそうな手法が金田氏らしい？

もうひとつは手堅く緻密な設計法で知られる黒川達夫氏の2A3パラレルPPで、最大出力が30W。モノラル構成とはいえかなり高密度な実装で、調整も大変そうですが、ぜひ聴いてみたいアンプ。氏の設計は理詰めなので、出す音にもある種の先入観を持っていたのですが、実際聴いてみると非常に美しく緻密な音楽を奏でていた体験があります。

とはいいいながら、いま使っているアンプに不満はそれほどないので読んで想像する楽しさで終わってしまう今日この頃でした。

文字組：カスタム、オブティカル（トラッキング+5）

ビリー・ホリデイのディスクで個人的な一押しは47年のカーネギーホールのライブです。

ピアノがああポビー・タッカーであるというのも素晴らしいですし、ビリーのコンディションが（例外的に）良く、聴衆との暖かいコミュニケーションが伝わってくる録音（音も年代を考えるとかなり良い）です。

以前、ヴァーブの10枚組の全集に収録されていましたが初出盤がどういふものかも知りませんし、再発されたかどうか分かりません。

ビリー・ホリデイ関係の文献をあさって調べたところ、1947年はピアニスト、ポビー・タッカーとの共演はたったひとつ。カーネギーホールのJATPコンサートに飛び入りの出演したという記述がありました。いやがるビリーを無理矢理タクシーに押し込めて、会場に向かったとか。たった4曲だけですが、本当に名演。信頼するポビー・タッカーに身も心も委ねているかのような、リラックスした優しさに満ちています。ラストの「アイ・カバー・ザ・ウォーターフロント」のひたむき！

2000.12.05

MJの記事から

オーディオ雑誌を購入することが、最近では少なく、たいていは近所の公共の図書館で1か月遅れを借りて読んでいます。

そんな中で12月号のMJ無線と実験は、久しぶりに読みごたえのある制作記事が載っていました。

ひとつはDCアンプで有名な金田明彦氏の300B SEPPアンプで、OTLの手法ともいえるSEPP回路を管球の300Bで構成し、出力トランスはDCを流さない、単なるマッチングトランス。整流管のあとのCが1000 μ もあつたりして、古い管球マニアは顔をしかめそうな手法が金田氏らしい？

もうひとつは手堅く緻密な設計法で知られる黒川達夫氏の2A3パラレルPPで、最大出力が30W。モノラル構成とはいえかなり高密度な実装で、調整も大変そうですが、ぜひ聴いてみたいアンプ。氏の設計は理詰めなので、出す音にもある種の先入観を持っていたのですが、実際聴いてみると非常に美しく緻密な音楽を奏でていた体験があります。

とはいいいながら、いま使っているアンプに不満はそれほどないので読んで想像する楽しさで終わってしまう今日この頃でした。